



2013(平成 25) 年度
大学学部入学式式辞
2013(平成 25) 年 4 月 1 日

新入生の皆さん、ご入学まことにおめでとうございます。慶應義塾を代表して新入生を歓迎し、また入学をお祝いします。また新入生のご家族、関係者の皆さまにもお喜びを申し上げます。

慶應義塾大学では、学生を塾生、卒業生を塾員と呼び慣わしています。今日もたくさんの方々がこの式にご臨席です。とくに入学式には毎年卒業50年目の塾員をお招きしています。この式場の後方のスタンド席には、卒業50年目を迎えられた塾員の方々が、新入生の入学をお祝いに全国各地から駆けつけてくださっています。

新入生とともに塾員の皆さんのご臨席に感謝したいと思います。

さて私たちはいま大きな変化の時代を生きています。それは社会の構造そのものが全く様変わりしてしまうような大きな変化です。例えば、社会の基

新入生の皆さんが生まれた1990年代半ばには、人口に占める65歳以上の高齢者の比率はまだ人口の7分の1程度でしたが、いまやそれは人口の4分の1となり、そして皆さんが働き盛りの40歳台となる2030年代半ばには人口の3分の1が高齢者となります。もはや過去の延長線上でものを考えたり問題を解決することはできず、また世界に類を見ない高齢化ですから、どこかよその国に参考となる事例などを探すこともできません。

新しい状況を自らの頭で理解し、その理解にもとづいて問題を解決することが求められます。要するに自分の頭で考える力が何よりも大切になるということです。ただし自分の頭で考えるといっても、それはただ闇雲に思いを巡らせばよいということではありません。

自分の頭で考える力というのは、系統的に物事を考える能力ということですね。具体的には、まず考えるべき問題を見つけ、その問題がなぜ起きているのかについて自分なりの考えをまと

め、そしてその自分なりの考えが正しいかどうかを何らかの方法で確認し、結論を得るということです。実はこれはこれから皆さんの学ぶ学問の方法論、科学の方法論に他なりません。学問や研究というものは、まだ誰も解答を与えていない問題をテーマとし、その問題に自分なりの解答を考え、これを学問の言葉では仮説といいますが、その仮説が正しいかどうかを自然科学であれば実験などによって、社会科学であれば統計などを使い、また人文科学であれば文献調査などによって確認し、これを学問の言葉では検証といいます。そして結論を導くというプロセスです。

つまり変化の時代には、何よりも自分の頭で考える能力を磨くことが重要であり、その能力は学問をすることによって磨かれるということです。そこで慶應義塾大学では、まず皆さんに幅広く学問を学んでもらいます。そのことによってそうした学問を確立した過去の学者たちが、まさに自分の頭で考

えたプロセスを追体験できるからです。

さらに皆さん自身にも学問、研究をしてみたいと思います。研究テーマを見つけ、そのテーマについて自らの考えをまとめ、何らかの方法で検証し、結論を導くという作業を実際に行うということ です。具体的にはさまざまな形での研究レポートを書くという作業、そして最終的には卒業論文や、卒業研究をするという作業の実践です。こうした実際の研究を行う作業を実践することを通じて、自分の頭で考える力が自ずとついてくることとなります。

そしてまた皆さんはさまざまな課外活動にも参加すると思います。例えばそれがスポーツの場合には、次の試合に勝たねばならないという課題を抱え、そのためにはどんな技術や戦術を磨けばよいか自ら考え、それを日々の練習や稽古で試して、最良の技や戦術で試合に臨むわけですが、これも自分の頭でものを考える力を養う良い機会です。これは芸術、文化、学術系のクラブにおいて、日々の活動で自ら考え、

発表会、展覧会、報告会に臨むといったことでも同じです。

慶應義塾創設者である福澤先生もまた大きな変化の時代を生きた方でした。封建の江戸時代に生まれ、明治維新を経て近代の日本を教育者として、また知的指導者として生きた方です。

こうした激動の時代を生きた同世代人を、先生は「恰も一身にして二生を経るが如く」、つまり一人の人間がまるで二つの人生を生きたようなものだと表現されているほどです。そうした大きな変化の時代に、皆さんもご存知の『学問のすゝめ』や『文明論之概略』といった著作のなかで強調されたのが「学問」でした。

とくにそこで強調されたのが、「実学」ということでありました。実学というと役に立つ学問という意味もありますが、福澤先生にとって実学とは、ある書物のなかでその言葉に「サイヤンス」、つまり「サイエンス」とルビをふったことから分かるように、科学のことでした。とくにそれは、証明

可能な実証科学のことでした。

変化の少ない江戸時代なら、誰か偉い人の言ったことを信じて覚えるという学問でもよかったかもしれませんが。しかし大きな変化の時代には、すべての事柄を疑い、自分で考えて実証するような学問、実学が何よりも大切だと福澤先生は考えられたのです。

だからこそ福澤先生は、混乱のなかでもぶれずに学問、とくに実学を徹頭徹尾重視されました。先生がいかに学問を重視したかのエピソードは、枚挙に暇がありません。

例えば明治維新のときに上野の山で官軍と彰義隊が衝突して戦争になったとき、当時芝にあった慶應義塾のまわりでも人々は、「大変だ」ということで避難を始めました。しかし先生は上野と芝は十分に距離が離れているから大砲の弾は飛んでこないと判断し、あわてることなくいつものとおりウエーランドの経済書を講義し続けた、と言われています。そういうときだからこそ、維新後の日本を担う塾生はしっか

りと学問に集中しなければならぬと
考えられたわけです。

いまもまた大きな変化の時代です
が、そういう時代だからこそあわてず
に、じっくりと学問に専念してくださ
い。大学においてのみ、あるいは慶應
義塾大学でしかできないことに没頭し
てほしいと思います。まずは慶應義塾
大学の充実した導入教育で学問の面白
さや意義を知ってください。そして、
自らも課題レポートを書いたり、最終
的には卒業論文や卒業研究などをま
めることを通じて、しっかりと学問を
実践してほしいと思います。

また皆さんが自分の好きで得意な課
外活動にも伸び伸びと取り組んでほし
いと思います。もちろんそうは言っ
ても、学業と課外活動の両立はなかなか
容易ではありません。しかしそうした
なかで、例えばスポーツと学業の文武
両道を実現することによって、制約の
なかでしっかりと成果をあげるとい
う、社会に出たときに必ず必要となる
能力も磨かれるはずです。

慶應義塾大学においてぜひ、幅広く
学問を学び、また自ら研究もし、そし
て伸び伸びと課外活動にも励んでいた
だきたいと思います。そのことによつ
て、変化の時代に何よりも必要とされ
る自分の頭で考える力が養われるはず
です。皆さんには必ずそれができると

確信しています。改めて入学をお祝い
し式辞といたします。
さてこの入学式には数多くの留学生
もおられますので、短く英語の式辞(左
に掲載)も述べます。
本日はまことにおめでとうございま
す。

Since there are a number of international students joining Keio today, I would like to make some remarks in English very briefly. First of all, to all the new students, on behalf of Keio University, I would like to welcome you and to extend my heartfelt congratulations. I would also like to offer my sincere congratulations to your family and friends.

We are now living in a time of great change, change so great that the sustainability of our society itself is at stake. The founder of Keio University Yukichi Fukuzawa also lived in a time of great change in both the feudal Edo period and the modernized Japan that followed the Meiji Restoration. As he said of his generation, "We have lived two lives, as it were". In such a time of great change, Fukuzawa repeatedly emphasized the importance of science and learning for fostering young people who could think for themselves.

Given that the principles of Fukuzawa are honored at Keio to this day, I am sure that you will be able to obtain the ability to think for yourself here at Keio University. I hope that you all have a meaningful and enjoyable student life here at Keio. I congratulate you again and thank you all very much.